

感染症発生動向調査事業
各関係機関の長様

埼玉県衛生研究所長

感染症発生動向調査事業週単位情報の送付について（通知）

このことについて、別添のとおり送付いたします。
なお、今週は下記の内容を含んでいます。

記

1. 今週の県内情報
2. インフルエンザ流行情報
3. 今週の全数把握対象疾患の報告数、累計
4. 結核の届出状況（月報）
5. 今週の定点把握対象疾患の報告患者数、定点当たり報告数
6. 全国及び関東情報
7. Saitama Infectious Agents Surveillance Report
Topics（2017/18シーズンのインフルエンザウイルス検出状況
について）
8. 今週の流行状況

担当 埼玉県衛生研究所 感染症疫学情報担当
電話 0493-59-9325
FAX 0493-59-9613
e-mail p5349952@pref.saitama.lg.jp

感染症患者発生情報（週報）

埼玉県内情報 平成30年第3週（平成30年1月15日～平成30年1月21日）

今週の注目される疾患

図は次ページ以降に掲載

全数把握対象疾患では、一類、二類（結核を除く）の届出はなかった。三類感染症は、腸管出血性大腸菌感染症2人、腸チフス1人の届出があった。四類感染症は、レジオネラ症2人の届出があった。五類感染症は、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症2人、急性脳炎3人、侵襲性インフルエンザ菌感染症1人、侵襲性肺炎球菌感染症6人、梅毒4人、百日咳2人、薬剤耐性アシネトバクター感染症1人の届出があった。

定点把握対象疾患では、**インフルエンザ**(29.46 61.63：図1-4)の定点当たり報告数は、前週の29.46から急激に増加し、過去4年の最大値51.68を大きく超えた。保健所別では、草加(85.63)、幸手(76.86)、越谷市(72.85)、熊谷(72.07)、加須(70.80)保健所の順に多く、県東部で顕著である。年齢階級別では、5-9歳が33%、10-14歳が19%、0-4歳が16%を占めた。第52～3週の4週間(12月25日～1月21日)に採取されたインフルエンザ検体のうちウイルスの型別が終了した126検体は、B型(山形系統)が66検体(52.4%)、AH1pdm09型が41検体(32.5%)、AH3型が19検体(15.1%)であった。基幹定点報告対象疾患である**インフルエンザ(入院)**(16人 38人)の報告数は前週より大きく増加し、年齢階級別では、70歳以上が20人と最も多く、次いで5-9歳の6人が多い。**A群溶血性レンサ球菌咽頭炎**(2.37 3.40)の定点当たり報告数は、前週より増加した。保健所別では、保健所別では、川口(7.82)、春日部(7.67)保健所管内からの報告が多い。

眼科定点報告対象疾患では、**流行性角結膜炎**19人の報告があった。他の基幹定点報告対象疾患では、**無菌性髄膜炎**2人、**マイコプラズマ肺炎**4人の報告があった。

<全数把握対象疾患の患者情報>

一類感染症	報告なし	
二類感染症	報告なし(結核を除く)	
三類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	2人(類型 患者1人、無症状病原体保有者1人、血清型 O157 1人、O血清型不明1人)
	腸チフス	1人(推定感染地域 国外)
四類感染症	レジオネラ症	2人(病型 肺炎型2人)
五類感染症	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	2人(菌種 <i>Enterobacter</i> sp. 2人)
	急性脳炎	3人(病原体 インフルエンザウイルスA 1人、不明2人)
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1人
	侵襲性肺炎球菌感染症	6人
	梅毒	4人(病型 早期顕症 期2人、早期顕症 期1人、無症状病原体保有者1人)
	百日咳	2人
	薬剤耐性アシネトバクター感染症	1人

1 この情報に関する御質問・御意見等がございましたら、下記まで御連絡ください。
 衛生研究所 感染症情報担当者会議(感染症疫学情報担当) TEL: 0493-59-9325 FAX: 0493-59-9613
 e-mail: p5349952@pref.saitama.lg.jp URL: <http://www.pref.saitama.lg.jp/b0714/surveillance/index.html>

2 全国の感染症発生動向に関する情報は、国立感染症研究所の感染症疫学センターホームページ(URL: <http://www.nih.go.jp/niid/ja/from-idsc.html>)で御覧になれます。

インフルエンザ流行情報（第3週） 小児科定点・内科定点からの報告

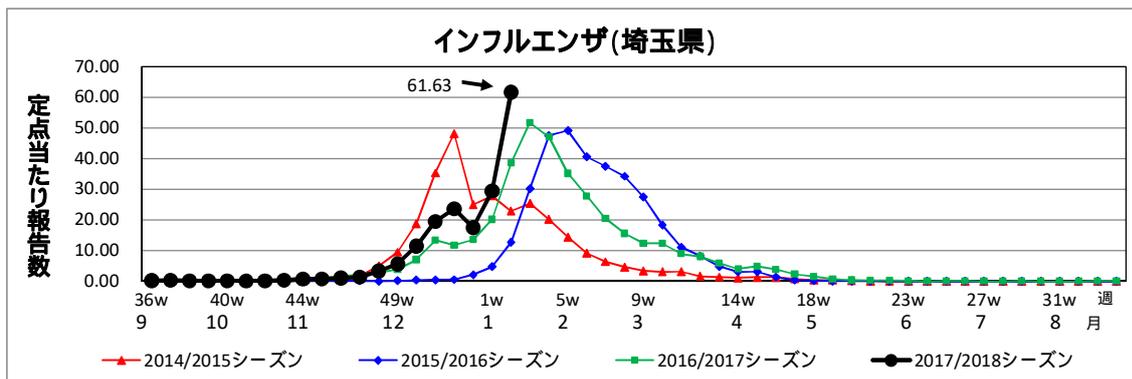


図1 定点当たり報告数の推移

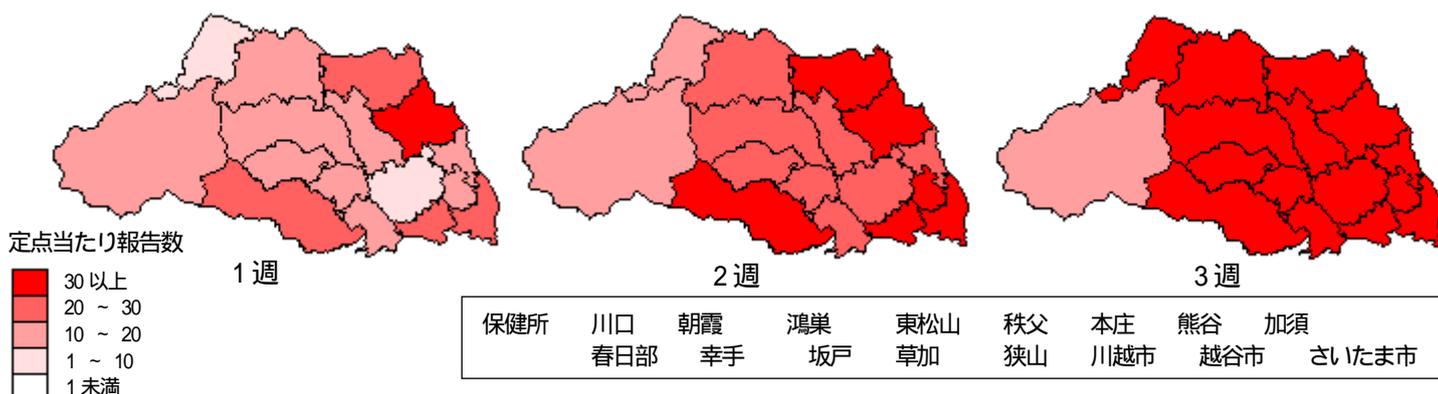


図2 流行の推移（2018年1週～2018年3週）

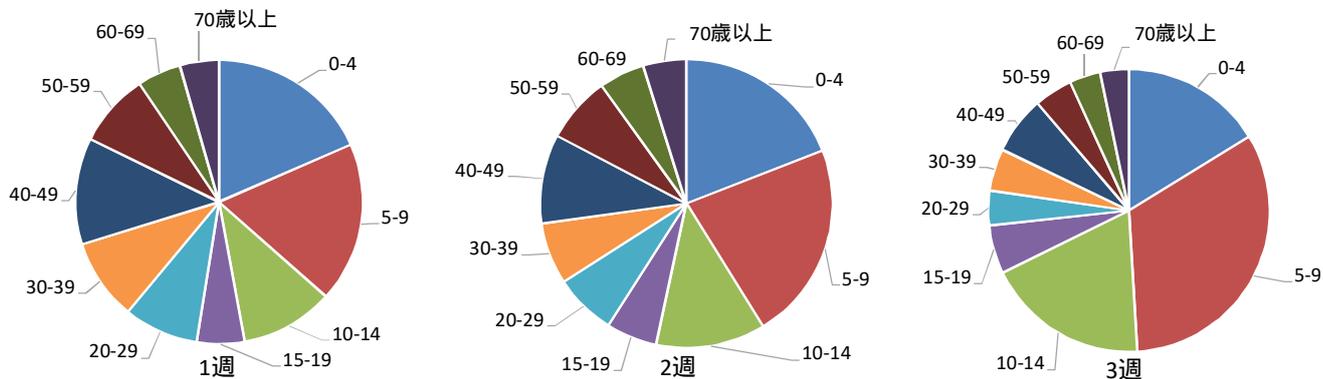


図3 各週における報告患者の年齢（割合）

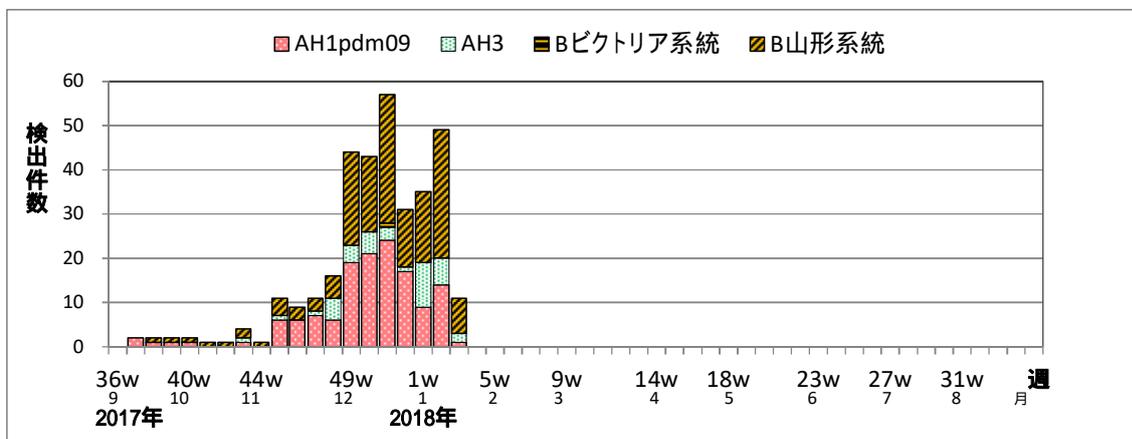


図4 AH1pdm09、AH3、B（ビクトリア系統、山形系統）の週別検出数

詳細なウイルスの検出状況は <http://www.pref.saitama.lg.jp/b0714/surveillance/srv-flu.html> をご覧ください。

感染症発生状況(全数把握対象疾患)
(第3週)

(2018年1月23日 15:00集計)

	今週 届出	累 計	2017年 累計		今週 届出	累 計	2017年 累計
一類感染症							
エボラ出血熱				ベスト			
クリミア・コンゴ出血熱				マールブルグ病			
痘そう				ラッサ熱			
南米出血熱							
二類感染症							
急性灰白髄炎				中東呼吸器症候群(MERS)			
結核*	-	-	1280	鳥インフルエンザ(H5N1)			
ジフテリア				鳥インフルエンザ(H7N9)			
重症急性呼吸器症候群(SARS)							
三類感染症							
コレラ		1		腸チフス	1	1	3
細菌性赤痢			7	パラチフス			
腸管出血性大腸菌感染症	2	3	246				
四類感染症							
E型肝炎		1	19	東部ウマ脳炎			
ウエストナイル熱				鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く)			
A型肝炎			12	ニパウイルス感染症			
エキノコックス症				日本紅斑熱			
黄熱				日本脳炎			
オウム病			1	ハンタウイルス肺症候群			
オムスク出血熱				Bウイルス病			
回帰熱				鼻疽			
キャサヌル森林病				ブルセラ症			1
Q熱				ベネズエラウマ脳炎			
狂犬病				ヘンドラウイルス感染症			
コクシジオイデス症				発しんチフス			
サル痘				ポツリヌス症			
ジカウイルス感染症				マラリア			1
重症熱性血小板減少症候群				野兔病			
腎症候性出血熱				ライム病			
西部ウマ脳炎				リッサウイルス感染症			
ダニ媒介脳炎				リフトバレー熱			
炭疽				類鼻疽			
チクングニア熱				レジオネラ症	2	3	99
つつが虫病		1	2	レプトスピラ症			2
デング熱			12	ロッキー山紅斑熱			
五類感染症							
アメーバ赤痢		3	53	水痘*			12
ウイルス性肝炎(E型・A型を除く)			11	先天性風しん症候群			
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	2	3	57	梅毒	4	9	232
急性脳炎	3	4	45	播種性クリプトコックス症		1	3
クリプトスポリジウム症				破傷風			2
クロイツフェルト・ヤコブ病			4	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症			
劇症型溶血性レンサ球菌感染症		2	21	バンコマイシン耐性腸球菌感染症			12
後天性免疫不全症候群		1	34	百日咳	2	6	-
ジアルジア症				風しん			6
侵襲性インフルエンザ菌感染症	1	1	20	麻しん			5
侵襲性髄膜炎菌感染症			2	薬剤耐性アシネトバクター感染症	1	1	8
侵襲性肺炎球菌感染症	6	13	131				
指定感染症	該当疾患は無し						

水痘*：患者が入院を要すると認められるものに限る。

ウイルス性肝炎(E型・A型を除く)再掲	B型	C型	D型	その他
累計				

累計は診断日で集計
*2017年累計は暫定値です。
*結核は月単位で集計、別に掲載します。

結核届出状況(12月分)

12月の届出総数は、患者52人、疑似症患者2人、無症状病原体保有者39人の計93人で、患者数、無症状病原体保有者数のいずれも前月とほぼ同水準であったが、前年の同月と比較すると少なかった。

表1 診断月別の届出数の推移(2016年12月～2017年12月)

	2016年*		2017年												累計**
	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
総計	111	101	105	108	100	120	115	110	119	107	122	96	93	1296	
年齢階級															
10歳未満	4	0	2	2	4	5	2	4	6	8	3	1	3	40	
10歳代	0	1	1	5	0	3	0	1	5	1	5	5	1	28	
20歳代	9	7	7	7	10	9	9	11	9	8	13	5	15	110	
30歳代	10	12	6	6	7	14	8	9	5	11	8	10	8	104	
40歳代	13	6	15	12	7	13	8	12	16	13	20	9	9	140	
50歳代	17	8	6	9	13	8	14	11	6	13	16	16	12	132	
60歳代	18	25	21	18	12	19	19	12	16	13	15	6	8	184	
70歳代	20	20	18	26	18	18	22	24	18	18	16	21	15	234	
80歳以上	20	22	29	23	29	31	33	26	38	22	26	23	22	324	
性															
男	77	70	62	66	64	75	67	64	63	49	65	48	47	740	
女	34	31	43	42	36	45	48	46	56	58	57	48	46	556	
類型															
患者	64	75	77	76	69	89	79	82	75	56	65	54	52	849	
感染症死亡者の死体	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
感染症死亡疑い者の死体	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
疑似症患者	3	1	0	2	0	0	1	3	1	1	2	1	2	14	
無症状病原体保有者	44	25	28	30	31	31	35	25	43	50	55	41	39	433	
病型															
肺結核	50	55	58	57	52	63	66	59	52	48	50	42	39	641	
肺結核及びその他の結核	2	5	4	6	6	8	4	3	7	2	3	1	1	50	
その他の結核	12	15	15	13	11	18	9	20	16	6	12	11	12	158	
疑似症患者	3	1	0	2	0	0	1	3	1	1	2	1	2	14	
無症状病原体保有者	44	25	28	30	31	31	35	25	43	50	55	41	39	433	

*:2016年の届出数は暫定値

** :2017年1月からの累積届出数

12月に診断された93人を病型別にみると、肺結核は10歳未満及び10歳代を除く年齢階級から計39人の報告があり、80歳以上が17人で最も多かった。無症状病原体保有者は、全ての年齢階級から報告があった。

表2 年齢階級別病型別の届出数(2017年12月分)

	病 型					総計
	肺結核	肺結核及びその他の結核	その他の結核	疑似症患者	無症状病原体保有者	
総計	39	1	12	2	39	93
年齢階級						
10歳未満	0	0	0	0	3	3
10歳代	0	0	0	0	1	1
20歳代	4	0	3	0	8	15
30歳代	4	0	1	0	3	8
40歳代	2	0	0	0	7	9
50歳代	4	0	2	0	6	12
60歳代	4	0	1	0	3	8
70歳代	4	1	3	2	5	15
80歳以上	17	0	2	0	3	22

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (第3週 平成30年1月15日～平成30年1月21日)

	合計																				
	-6ヵ月	12ヵ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～	
インフルエンザ #1	15,840	26	120	382	499	599	947	1,059	1,122	1,067	1,024	931	2,957	877	630	764	1,052	692	570	333	189
	合計	-6ヵ月	12ヵ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
RSウイルス感染症	70	9	21	30	6	2	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	33	-	3	5	3	5	2	2	6	2	2	1	1	-	1	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	555	-	1	16	25	40	80	80	69	66	52	42	55	11	18	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎	1,255	10	47	169	138	109	111	93	57	59	57	39	161	56	149	-	-	-	-	-	-
水痘	49	-	1	6	6	4	5	6	6	6	2	-	5	1	1	-	-	-	-	-	-
手足口病	9	-	1	2	1	-	3	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	33	-	-	1	2	5	8	8	3	3	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発しん	66	-	21	32	8	4	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	5	-	-	-	1	-	2	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	15	-	-	-	-	-	6	4	1	-	2	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
	合計	-6ヵ月	12ヵ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	19	-	-	1	3	-	2	-	-	-	-	-	2	-	1	5	2	1	1	1	1
	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70-74	75-79	80-84	85-89	90～
細菌性髄膜炎 #2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	4	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
クラミジア肺炎 #3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(入院)インフルエンザ	38	3	3	6	2	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	1	20	-	-	-	-

表中の数値は各定点からの報告数 (- : 0)

#1 鳥インフルエンザを除く

#2 真菌性を含む

#3 オウム病を除く

全国・関東情報

第1週 (1月1日～1月7日)

平成30年1月24日

<全国情報>

インフルエンザ: 定点当たり報告数は減少した。都道府県別の上位3位は宮崎県(34.17)、沖縄県(31.76)、大分県(28.93)である。基幹定点からのインフルエンザ入院サーベイランスにおける報告数は1,225例と前週と比較して増加した。都道府県別では47都道府県から報告があり、年齢別では0歳(46例)、1～9歳(257例)、10代(47例)、20代(18例)、30代(21例)、40代(39例)、50代(67例)、60代(137例)、70代(201例)、80歳以上(392例)であった。

小児科定点報告疾患(主なもの): RSウイルス感染症の報告数は1,357例と2週連続で減少した。年齢別では1歳以下の報告数が全体の約79%を占めている。咽頭結膜熱の定点当たり報告数は3週連続で減少した。都道府県別の上位3位は富山県(1.34)、新潟県(0.96)、鹿児島県(0.91)である。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は3週連続で減少した。都道府県別の上位3位は鳥取県(4.21)、福井県(2.18)、岩手県(2.13)である。感染性胃腸炎の定点当たり報告数は3週連続で減少した。都道府県別の上位3位は大分県(11.11)、宮崎県(6.19)、鹿児島県(5.93)である。水痘の定点当たり報告数は3週連続で減少した。都道府県別の上位3位は石川県(1.48)、沖縄県(0.74)、新潟県(0.72)である。手足口病の定点当たり報告数は第50週以降減少が続いている。都道府県別の上位3位は長崎県(0.77)、佐賀県(0.70)、青森県(0.57)である。伝染性紅斑の定点当たり報告数は3週連続で減少した。都道府県別の上位3位は岩手県(0.30)、栃木県(0.17)、神奈川県(0.15)である。流行性耳下腺炎の定点当たり報告数は2週連続で減少した。都道府県別の上位3位は鹿児島県(1.20)、岩手県(0.75)、青森県(0.67)である。

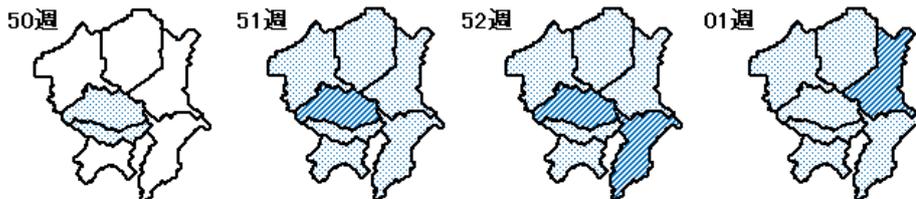
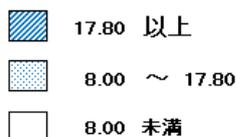
基幹定点報告疾患: マイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数は第49週以降減少が続いている。都道府県別の上位3位は秋田県(1.75)、石川県(1.00)、青森県(0.67)、愛媛県(0.67)である。感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)の定点当たり報告数は減少した。12都府県から19例報告があり、年齢別では0歳(3例)、1～4歳(8例)、5～9歳(5例)、10代(2例)、70歳以上(1例)であった。

Infectious Diseases Weekly Report Japan 2018年 第1週(1月1日～1月7日): 通巻第20巻 第1号 より

<関東情報>

インフルエンザの定点当たり報告数は、茨城県(23.69)からの報告が多い。

インフルエンザ



平成30年 01週

		全国	関東地域	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県
インフルエンザ #1	報告数	79,930	19,869	2,843	845	1,012	4,317	3,068	4,335	3,449
	定点当たり	16.31	13.43	23.69	11.12	11.50	17.48	14.54	10.84	10.20
RSウイルス感染症	報告数	1,357	217	37	20	9	50	26	54	21
	定点当たり	0.44	0.23	0.49	0.42	0.17	0.32	0.20	0.22	0.10
咽頭結膜熱	報告数	935	226	20	3	29	52	28	46	48
	定点当たり	0.30	0.24	0.27	0.06	0.54	0.33	0.21	0.18	0.23
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	報告数	3,382	980	102	24	86	176	190	227	175
	定点当たり	1.09	1.06	1.36	0.50	1.59	1.13	1.44	0.90	0.84
感染性胃腸炎	報告数	10,385	2,888	232	94	197	567	423	760	615
	定点当たり	3.36	3.13	3.09	1.96	3.65	3.63	3.20	3.03	2.96
水痘	報告数	1,402	467	33	18	21	94	60	108	133
	定点当たり	0.45	0.51	0.44	0.38	0.39	0.60	0.45	0.43	0.64
手足口病	報告数	541	91	15	8	11	9	17	10	21
	定点当たり	0.18	0.10	0.20	0.17	0.20	0.06	0.13	0.04	0.10
伝染性紅斑	報告数	144	80	5	8	3	11	3	19	31
	定点当たり	0.05	0.09	0.07	0.17	0.06	0.07	0.02	0.08	0.15
突発性発しん	報告数	630	168	12	7	9	35	18	52	35
	定点当たり	0.20	0.18	0.16	0.15	0.17	0.22	0.14	0.21	0.17
ヘルパンギーナ	報告数	52	5	2	-	-	1	2	-	-
	定点当たり	0.02	0.01	0.03	-	-	0.01	0.02	-	-
流行性耳下腺炎	報告数	554	83	4	1	14	9	14	16	25
	定点当たり	0.18	0.09	0.05	0.02	0.26	0.06	0.11	0.06	0.12
急性出血性結膜炎	報告数	5	1	-	-	-	1	-	-	-
	定点当たり	0.01	-	-	-	-	0.03	-	-	-
流行性角結膜炎	報告数	424	170	19	14	7	20	19	16	75
	定点当たり	0.61	0.83	1.12	1.17	0.47	0.51	0.54	0.42	1.53
細菌性髄膜炎 #2	報告数	10	2	-	-	-	-	-	2	-
	定点当たり	0.02	0.02	-	-	-	-	-	0.08	-
無菌性髄膜炎	報告数	8	1	-	-	-	-	1	-	-
	定点当たり	0.02	0.01	-	-	-	-	0.11	-	-
マイコプラズマ肺炎	報告数	96	11	2	1	1	1	4	1	1
	定点当たり	0.20	0.13	0.15	0.14	0.11	0.10	0.44	0.04	0.10
クラミジア肺炎 #3	報告数	2	1	-	-	-	-	-	1	-
	定点当たり	0.00	0.01	-	-	-	-	-	0.04	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	報告数	19	3	-	-	-	-	-	1	2
	定点当たり	0.04	0.04	-	-	-	-	-	0.04	0.20

#1 鳥インフルエンザを除く

#2 真菌性を含む

#3 オウム病を除く

(-:0.00)



2017/18 シーズンのインフルエンザウイルス検出状況について

2017/18 シーズンの埼玉県におけるインフルエンザは、感染症発生動向調査に基づく定点当たり患者報告数が、2017年第46週(11月13日~19日)に1.00を超えて流行期に入りました。今回は、2017/18シーズン(今シーズン)前半に県域(政令市を除く市町村)のインフルエンザ指定提出機関で採取された検体の検査結果を報告します。

2017年第36週から52週の期間に15保健所管内から計223検体が搬入され、206検体からAH1pdm09が98件、AH3亜型が17件、B型が90件(山形系統[Byam]89件、ビクトリア系統[Bvic]1件)、A型亜型未確定のウイルスが1件検出されました。今シーズンのインフルエンザの主たる流行ウイルスはAH1pdm09とB型であり、AH3亜型の検出数は少なくなっています。

これまでの主たる流行ウイルスをみると、2014/15シーズン及び2016/17シーズンがAH3亜型、2015/16シーズンがAH1pdm09と2つのA亜型が交互に主流となっており、B型は年明け以降に流行する傾向がありました。

今シーズンは、シーズン初めからB型ウイルスが多く検出されており、また、検出されているB型ウイルスは、ほぼByamで占められていることが大きな特徴になっています。(図1、2)。

インフルエンザウイルスを検出した患者の年齢階級は、AH1pdm09では、5-9歳が最も多く、次いで10-14歳、5歳未満の順に分布しており、20歳未満が77%を占めました。AH3亜型は50歳代を除く各階級に分布していました。ByamはAH1pdm09と同様の分布傾向であり、20歳未満が87%を占めました。Bvicは5歳未満からの検出でした(図3)。

今シーズンの週別、患者年齢階級別のインフルエンザウイルス型別検出数等の詳細は県感染症情報センターのホームページ(<http://www.pref.saitama.lg.jp/b0714/surveillance/srv-flu.html>)で、最新情報を毎週、お知らせしているところですのでご覧ください。

指定提出機関の先生方には、引き続き検体採取への協力をお願いします。

インフルエンザに関する最新の全国情報は、国立感染症研究所感染症疫学センターのホームページ(<http://www.nih.go.jp/niid/ja/iasr-inf.html>)でご覧になれます。

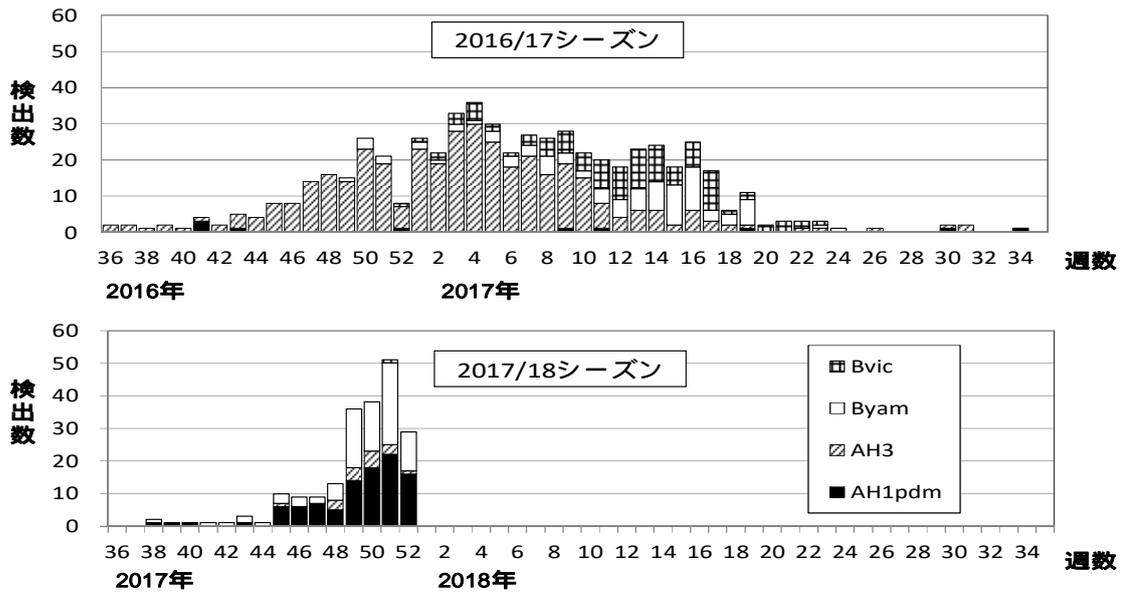


図1 週別インフルエンザウイルス検出状況

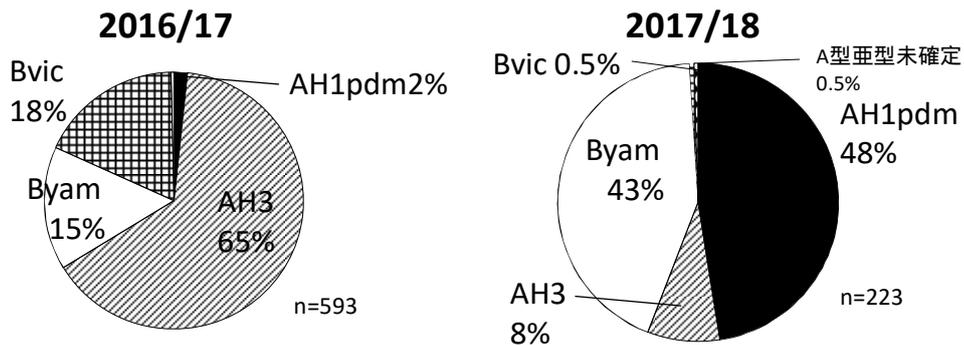


図2 2016/17及び2017/18シーズンの県域におけるインフルエンザウイルス型別実施状況
(2016/17シーズンは2016年第36週から第52週及び2017年第1週から第36週、
2017/18シーズンは2017年第36週から第52週まで。2018年1月22日集計)

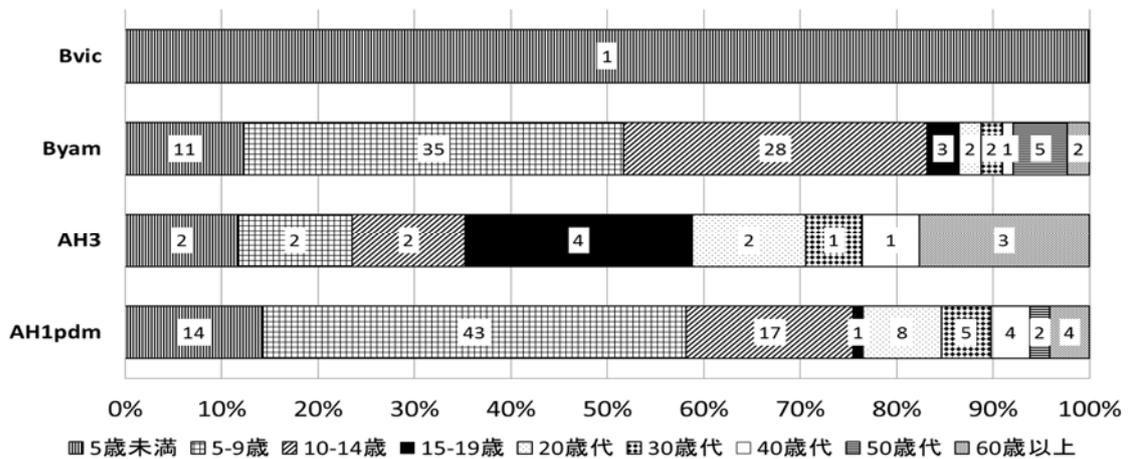


図3 インフルエンザウイルスを検出した患者の年齢階級分布(2017/18シーズン)
(白抜き中の数字は、ウイルス検出数)

総合トップ > 健康・福祉 > 感染症情報センター > 感染症の流行情報 > 感染症発生動向調査 > 感染症発生動向調査 2018年 > 感染症の流行状況 2018年 第3週

感染症発生動向調査 2018年

- [感染症の流行状況 2018年 第1週](#)
- [感染症の流行状況 2018年 第2週](#)

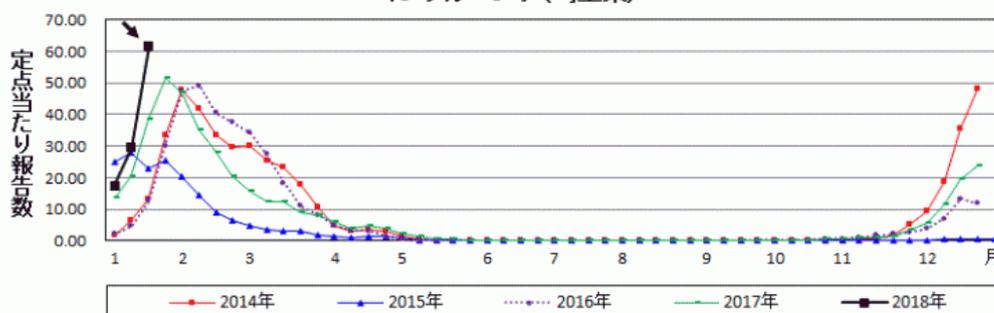
感染症の流行状況 2018年 第3週

2018年第3週（平成30年1月15日～1月21日）の要点 平成30年1月24日

インフルエンザの定点当たり報告数は、前週より大きく増加しました。外出後の手洗い・うがいとともに、十分な休養をとるよう心がけてください。また、お子さんの体調がすぐれない時は、医療機関に電話で相談の上、早目に受診してください。

- [インフルエンザに関する情報の掲載ページへ](#)
- [麻疹に関する情報の掲載ページへ](#)
- [風しんに関する情報の掲載ページへ](#)

インフルエンザ(埼玉県)



感染症流行状況

疾患	推移	流行状況	疾患	推移	流行状況
インフルエンザ	↑	★★★	伝染性紅斑(りんご病)	→	★
RSウイルス感染症	↑	★	突発性発しん	→	★
咽頭結膜熱(プール熱)	↓	★	ヘルパンギーナ	→	★
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↑	★★	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	→	★
感染性胃腸炎	→	★	急性出血性結膜炎	→	★
水痘(みずぼうそう)	→	★	流行性角結膜炎	→	★
手足口病	→	★			

*1.推移、流行状況は、県内全域の傾向です。*2.推移は2週間前からの傾向を示します。(→:増減無し、↑:増加、↓:減少) *3.流行状況は今週の流行を示します。(小さい←★、★★、★★★→大きい)

疾患名をクリックすると、各疾患の流行状況のグラフがご覧いただけます。

全国の感染症発生動向状況については、国立感染症研究所のホームページ「[感染症疫学センター](#)」でご覧になれます。

この情報は毎週水曜日に更新する予定です。ただし、祝日等により変更の場合もあります。



埼玉県のマスコット コバトン